

滋賀県文化振興基本方針（第3次）の進行管理について（案）

1 進行管理について

（1）基本的な考え方

- ・ 基本方針の進捗状況等を確認するため、令和4年度から毎年度、評価指標の達成状況や施策の実施状況を取りまとめ、文化審議会での検証を行う。
- ・ 進行管理においては、その結果を施策の改善や新たな施策展開に反映するとともに、文化審議会での検証等を通じて、評価に必要な関連数値の収集や新たな評価指標の検討を行い、評価の質の向上につなげる。

（2）進行管理の流れ

① 前年度実績のとりまとめ、自己評価（4月～6月）

- ・ 基本方針に掲げる評価指標や主な取組について、前年度の実績をまとめる。
- ・ 3つの「施策の柱」ごとに、評価指標の達成状況や施策の実施状況から自己評価を行う。
※ 評価においては、評価指標に加え、関連数値や定性的な情報も積極的に収集・活用する。

② 文化審議会での検証（7～8月）

- ・ 自己評価等の結果を文化審議会に報告し、意見をいただく。
- ・ 文化審議会での意見を受け、評価を確定する。
- ・ 評価の質の向上に向けて、今後収集すべき関連数値やその収集方法、次期基本方針に向けた新たな評価指標等についても意見をいただく。

③ 県民への結果の公表等（9月～）

- ・ 評価結果を県ホームページで公表する。
- ・ 評価結果を、施策の改善や次年度の施策展開に反映する。

④ 文化審議会での報告（翌年2月）

- ・ 次年度の施策展開等について報告する。

（3）実施体制

進行管理は文化審議会本体において実施していくこととし、評価部会は廃止する。

2 重点検討事項の設定について

- ・ 第1次・第2次基本方針では、次世代育成施策の充実を図るため、「次世代育成部会」の設置により重点的に取組を進めてきた。その結果、「美ココロ・パートナーシップ事業」の創設(H27～)や「ホールの子」事業の拡充など、その目的を一定達成できたため、同部会は廃止する。
- ・ 第3次基本方針では、県が担うべき広域的、専門的あるいは先導的な施策について、新たな重点検討事項を設定し、施策のあり方等について文化審議会重点的に審議を行いたい。

（重点検討事項(案)）

- ・ 芸術家や文化団体等の持続的な活動に向けた支援のあり方について